

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500040		
法人名	社会福祉法人萱垣会		
事業所名	中津川市グループホームまごころ		
所在地	岐阜県中津川市神坂3835番地204号		
自己評価作成日	平成22年8月20日	評価結果市町村受理日	平成22年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171500040&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171500040&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>3つの行動指針を掲げ、実現のための具体的な10の行動目標を立て、スタッフ一丸となって取り組んでいる。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年11月、母体法人は、創立60周年を迎えている。「目の前の困っている人を見過せない」と言う設立の動機は、脈々と受け継がれ、事業所運営の原点になっている。創立60周年を期に、利用者が、のびのび、生き生きと暮らせるために、3つの行動指針を作り上げている。それを実現するために、具体的な行動目標を立て、職員一丸となって実践している。利用者一人ひとりの人格を尊重し、思いやりのあるケアを行い、地域との交流を深めながら、楽しく明るい、風通しの良いホームを作り上げている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の方が住み慣れた地域での生活を継続する為に、地域の方・ボランティアの方が気軽に立寄って頂ける、人の寄る、楽しく明るい風通しの良い施設を目指す為、年度初めに目標行動計画を作り上げ、日々実践している。	住み慣れた地域で「寄り添い見守り共に暮らす」を理念としている。毎日のミーティングで唱和し、全職員で共有している。理念は、具体的な、行動計画にまとめ、楽しく明るい生活を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア団体の行事予定に組み入れられ、季節毎の行事にボランティアの協力を得て、四季を通じて利用者の方々の交流して頂いている。	地域の各種ボランティアが継続的に訪れ、協力関係を築いている。年間を通じた事業所の行事にも、多くの地域住民が参加している。利用者・職員とも顔馴染みの人が多く、地域と深くつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方に、行事等のご協力をいただき、認知症の方の説明をし、理解・支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の利用者様同士の事故を踏まえ、運営推進会議の中で報告をし、意見いただいて再発防止策を講じ、サービス向上に取り組んでいる。	会議は、2ヶ月毎に開催され、家族・行政・地域関係者・消防署員が参加している。防災に関する課題や転倒事故等について、意見が交わされている。意見は、対応策を講じ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の市の担当の方も新しい方になり、違った視点から報告や助言をいただき、中津川市の介護相談員の方が2ヶ月に一回訪問をしてくださり、後日報告書を頂き情報交換しサービス向上に生かしている。	市の介護相談員が2ヶ月毎に訪れ、終了後、その場で助言を受けている。また、事業所の建物は、市の指定管理者制度の中で運営しており、維持管理、補修等で、常に連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを目指し、委員会を毎月開催し話し合いをもち、一人一人の職員の自覚が持てるよう繰り返し職員会で伝達している。	身体拘束をしないケアを目指し、実践している。事業所内に、拘束ゼロ委員会があり、勉強会等で、拘束しないケアを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、委員会を中心に話し合いをもち、職員一人一人の自覚を促すよう努めており、ちょっとした言葉遣いも気に留めるよう防止に努めている。		

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、職員が研修会に参加し、職員会で資料を出し、話し合いの場をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の方が充分納得され、不安なことには説明をし理解をいただく働きかけをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を聞くサービス評価事業を行うとともに、運営推進会議で公表し意見交換の機会を設けている。月一回の茶話会で、利用者の意見を聞きながら、事業に反映している。	毎月、茶話会を開き、利用者の意見を聞くための評価事業と位置づけている。家族からは、訪問時や運営推進会議で意見を聞いている。夜間の事故防止、安心の確保についての意見がある。意見等は、法人内で検討し、事業に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会において、職員からの提案・意見を把握できる機会を設けており、事業運営に反映させている。	毎月の職員会議で、職員の意見・提案を聞いている。電気機器やコンセットの点検、ケアチェックシートの見直し、仕事の効率化を図る職員間の相互協力などの意見があり、事業運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに、各自が向上心を持てるよう、目標・行動計画を作成する中、個々の目標をたて発表させ、向上心を持って働けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量を把握しながら、事業所内外の研修会に参加させる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム部会、東濃支部グループホーム部会、複数事業所連絡会等を通して研修会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用にいたるまでに、お話の出来る機会を設け、ご本人のご意向等を少しでも多く受け入れるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、ご家族の意見・意向を伺い、不安・要望を受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に情報を得て、短期的にケアプランを作成し、少しでも早く生活に馴染めるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と共に暮らす姿勢を保ちつつ、良い支援者となるような関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の誕生祝い等を通して家族と共に祝いをし、共に支えていると感じる機会を多くもてるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅で暮してきた利用者様が、以前利用していた宅老所の方たちが2か月に一回ボランティアに来て下さっている特養へ出向き、馴染みの方との関係を継続出来るよう支援している。	訪れるボランティアの中には、馴染みの知人・友人がいるので、関係継続を支援している。また、併設の特別養護老人ホームの知人と会話する機会を設けている。馴染みの店で買い物や親戚宅への訪問など、家族と協力して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方が本の朗読をして下さる時に、利用者同士が関わられるように職員が配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に移られた方の面会に行ったり、ご家族からの相談にも応じ、次のサービスにつなげるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の意見・希望や意向を聞きながら支援している。聞き取りの困難は方は、ご家族に伺い対応している。	日々の暮らしの中で、話を聞いたり、表情や動作で、思いや意向を汲み取っている。個々の思いを職員間で伝え合い、全職員が共有し、暮らしの中に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用が始まる前に、本人やご家族に今までの生活歴を伺い、これからのサービスに反映している。今までの生活の延長線であることを重視している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェックから体調の確認をし、様子と行動を見守り、その方の変化に気を配っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に本人の様子を随時伝えながら、それぞれの意見や意向を重視し、意に添う介護計画を作成している。	ケアマネジャーを中心に、職員の気づきやアイデアと、家族の意向を介護計画に反映している。3ヶ月毎の定期見直しと、状態の変化に応じ、医師などの関係者と話し合い、随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録表に毎日の様子を記録し、職員間で情報を共有すると共に、毎月末には評価モニタリングを行い、介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢になった利用者を家族が通院介助してきたが、通院も大変になった為、主治医の変更が出来ないかとの相談に応じ、ご本人の体力を配慮して、併設の特養主治医が往診していることを伝え紹介した。		

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中津川市の五感健康法を普及している地域の方に2ヵ月に一度訪問していただき、利用者の心身の力を発揮できる機会を設ける支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医との関係を保ちながら、専門医に月一回往診をしていただき支援している。	利用者それぞれに「かかりつけ医」があり、必要に応じ、家族と同行し、受診を支援している。月に1回、専門医(精神科)の往診がある。かかりつけ歯科医の受診には、職員が送迎している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養の看護師と情報を交換しながら、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった時は面会をし本人の様子を把握し、医師・家族との連携を図っている。また、グループホームの理解を得られるように説明もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて、家族・医療機関等の協力体制、状況の確認、支援の方向性について話し合いをしている。	重度化・終末期の対応について、事業所で何処までできるのか、指針作りを進めている。重篤な医療処置のない、自然の看取りを行った事例がある。	終末期の課題については、医療連携を含めた指針作りを進めているため、関係者の理解と、方針が共有できるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回、救急法の講習会を行っている。研修会にも行き実践を養い、職員会でも話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域、地元消防との合同訓練の実施。ホーム内においても、夜間一人体制の想定訓練に取り組んでいる。	地域と合同の防災訓練を、年に2回実施している。夜間1人体制を想定した自主訓練も、年に6回行っている。地域住民とは、組織的な連絡網を整え、協力体制ができている。初動では、隣の施設に、消防署と警報ベルで繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を傷つけないように、プライバシーに配慮し、職員間で同じケアが行われるように対応している。	名前の呼び方は、利用者の反応を見て、決めている。脱衣場は、羞恥心に配慮し暖簾を下げ、暮らしの場面では、同じ目線で、優しい言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、服を選んでいただいたり、買物に行って食べたい物を選んだりして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のお茶の時間に、お茶を飲みながら何をしたいのか聞いたり、本人の気持ちをゆっくり聞きだし、その人のペースに合わせて支援できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んだり、外出時にはお化粧をしたりしている。ヘアースタイルを利用者様の好みのスタイルにして、鏡を見ながら配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に台所に入って、調理をしたり味付けをして、それぞれの好みの味付けをしている。	スーパーの広告を見て、利用者も食材の買出しに同行している。利用者に好みの味付けをしてもらい、調理に参加してもらっている。魚はいつも頭付きにして、利用者に喜ばれている。職員も、同じ食事を摂り、片付けも利用者と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量にムラのある方へ、少しでも栄養バランスに配慮し、水分量もこまめに摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	委員会を設け、口腔ケアの習慣付けに努めている。毎食後一人一人の口腔状態を見ながらケアしている。		

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を付け、排泄パターンを把握し、トイレ誘導をして排泄を促すよう努力している。	個々の排泄パターンを把握し、動きを察知しながら、トイレに誘導している。特に、食事前・入浴前は、必ず誘導するようにしている。細やかに促すことで、失敗が少なく、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムをチェックし、水分や食物繊維の摂取を心がけ、必要時には医師の判断を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を利用者の体調に配慮で行っている。音楽を流したり、歌をうたったりしてタイミングを合わせて入浴を楽しんでいただくよう支援している。	週2回の入浴日を設けているが、それ以外でも、利用者の希望を受け入れている。入浴嫌いな人も、介護者が看護師だと伝えることで、安心して応じてくれている。浴室には、音楽を流し、口ずさみながら、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるよう肌布団等で工夫しており、夜眠れなかった方には昼寝をしていただくよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬の処方、変更等あれば、様子を記録し職員で見守っている。異常時には家族・かかりつけ医と連携をとりながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	盆踊りの季節には、盆踊りの曲をかけ一緒に踊ったり、朗読の出来る方に本を読んでもらったりして、本人の力を生かした支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	茶話会等で個々の行きたい所を聞き、ボランティアの協力を得て、花火大会・盆踊り・ドライブ等、時節に合わせて外出している。	事業所周辺を散歩したり、畑の作物を見に日常的に出かけている。買い物や喫茶店へは、職員が同行支援している。普段は行けない花見・花火・盆踊りなどは、ボランティア団体の協力で実現している。	



岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	慣れたお店にて買物が出来るよう、店員さんの声がけで支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話で話をしたり、家族への手紙も書いたり出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花の朝顔を西日よけにして、みんなで見えるようにして、季節感を感じていただき、居心地のよい空間の工夫をしている。	玄関・居間には、季節の花を飾り、安らぎのある空間となっている。入居後に書いた書の入選作品3点が飾られ、利用者の自慢となっている。利用者は、対面式の調理場で、調理と関わりながら、日常を過ごしている。くつろげる広いテラスと、全員で囲める掘りコタツもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂で個々が自由に過ごせるよう、ソファの位置等、その時々で工夫して過しやすくできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時からの馴染みの家具を持ってきていただき、本人が使いやすいようになっており、毎朝化粧台の前で、化粧をして身だしなみを整えている。	居室には、鏡台や手鏡などの小物類を置き、利用者は、毎朝、身だしなみを整え、居住まいを正している。家族の写真・ぬり絵・賞状など、思い出多いものが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示やタオル等、利用者が「分かる事」を認識できるよう促している。		